

## 教職員の共通理解・共通実践を通して児童生徒の主体的な活動を推進する

ねがい

### 〈目的〉

自分や友だちのよさを認めたり、主体的に取り組めたりする児童生徒を育てるために、授業改善や学校行事のあり方を共通理解することで、児童生徒の意識の系統化を図ることにしました。

### 〈内容〉

つながり

#### ● 小中合同連絡協議会(校区内教員全員参加)の実施

小小連携・小中連携を通して、学び合いを核とした授業改善の在り方や、児童生徒が自己有用感を感じ得るような行事や活動のもち方について、小中教員が一堂に会して前期の指導を振り返り、共通理解を図る場としました。

##### 【意見交換から】

- ・ 人権・同和教育における歴史学習等については、3小学校が同じ指導案で、差がでないよう指導したい。
- ・ 生活のきまりを情報交換し、共通理解の上、小中の足並みをそろえたい。
- ・ 小中連携リーダー会を実施してはどうか。

これ以外についても教科部会等を含めて、活発な意見交換ができました。



【アンケート結果を報告している様子】

#### ● 事前事後の指導を大切にし、児童生徒の「絆づくり」となる学校行事

(昨年できなかったことを克服した人へのカード)

見通しをもたせたり、意欲を高めたりするための事前学習、振り返らせることで自己有用感を感じさせたり、お互いを認め合うことをしたりするための事後学習を設けました。特に、事後には小中ともに感謝の気持ちを表す作文(中学校では「ほほ笑みカード」)を書かせることで、「絆づくり」に努めました。

【ほほ笑みカード】2年3組〇〇〇〇さんへ  
去年はいつも遅れていたのに、今回の大縄跳びの練習では毎日7時30分に来て、朝カギを取りに行くというすごいことまでしていました。大縄では大きな声を出したり、団種目では竹たんかを一生懸命がんばったりしていました。これからも続けてがんばってください。

#### ● 学び合いのある授業づくり

授業にねらいを明確にした必然性のある話し合い活動を仕組み、学び合いのある授業に取り組んでいます。また、意図的なグループ作りや発表する場の工夫も行い、児童生徒の意欲化を図っています。そうすることにより、自分の意見を言える学級、ひいては居心地のよい学級、分かる授業づくりにもつながると考えています。



【学び合いをしている様子】

高まり

### 〈成果〉

教職員が小中連携を意識し、異校種の研究授業に参加する機会が増えました。さらに児童生徒による異校種の学校行事への見学等が増えたり、児童生徒が自分の学校に誇りを持ち、生徒会や児童会役員だけでなく、全校児童生徒が主体的に活動したりするようになりました。

今後は、児童生徒の交流を広げるとともに、地域や校区内PTAと連携した取組を考えています。